

リハビリテーション学部における産学連携による教育・実践モデルの構築

代表者：飯田妙子（リハビリテーション学部作業療法学科・産学連携推進リーダー）

分担者：新宮尚人（リハビリテーション学部長），
柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長），
矢倉千昭（理学療法学科），泉 良太（作業療法学科），
佐藤豊展（言語聴覚学科），

連携機関：尾上智彦，長嶋桃子，酒井英彰，波多江早織（杏林堂薬局）

協力者：藤田さより（リハビリテーション学部教務委員長，作業療法学科），
栗田洋平（作業療法学科），佐藤綾華（言語聴覚学科）
リハビリテーション学部作業療法学科・言語聴覚学科学生

【2021年度までの産学連携にかかるとの取り組み】

2019年度よりリハビリテーション学部事業計画の基盤整備として，学部の産学連携推進を開始した．学部教員はじめ，他大学における企業との連携状況について調査した上で，本学では在学生在が「地域における健康促進・疾病予防に関する学び」を主体的に取り組める機会の構築・発展を目的に，産学連携事業を展開することとした．

2020年度より具体的な活動を開始し，2021年度までに「心と身体の健康」をテーマにしたYouTube動画の作成・配信やオンライン運動教室，湖西市店舗での身体機能・認知機能に関する健康教室を実施している．

【本事業の目的（2022年度）】

企業との連携事業を通して，リハビリテーション学部および各学科の専門性を地域に提供し，健康促進・疾病予防などの地域密着型支援を行う．特に，コロナ禍における外出自粛による運動・活動量の減少，メンタルヘルスの問題や子育て支援，高齢者の健康支援に着目し，地域のニーズに即した専門知識・活動を提供することにより，地元住民や企業の課題解決の一助となると考える．

また，学生主体によるアクティブラーニングの形で行うことで，新しい教育・実践のモデルの構築を図っていく．本事業を行うことで学生の更なる学びにつながるだけでなく，企業や地域に本学並びにリハビリテーション専門職について実際に知っていただく広報活動の役割を担うことになり，学生募集や将来的には新しい領域（企業）への就職や新たな連携の可能性につなげていけるのではないかと考える．

【実施方法】

① 企業・学生・教員による連携事業の実施

2021年度より湖西市で実施されているBaaS事業実証実験（注1）に参加し，杏林堂薬局店舗にて「測定」を中心とした体験型イベントを学生主体で開催した．イベント後には，学生のアクティブラーニングの教育効果を測るため，アンケートを実施した．

② 新たな連携の可能性の検討

現在までに実施した動画作成，店舗イベント以外の形での連携の可能性を検討するため，杏林堂薬局にて実施されているその他の事業について情報共有，視察等を行なった．

【実施報告】

① 企業・学生・教員による連携事業の実施

・店舗イベントの実施

湖西市の BaaS 事業実証実験を利用，もしくは買い物のため杏林堂薬局店舗を訪れた地域高齢者を対象に，「測定」を中心とした体験型イベントを3回実施した．測定結果についてフィードバックし，家で実施できる予防法を指導，日常生活に生かしていただけるよう資料を配布した．イベントには実証実験を担当されている湖西市役所都市計画課職員も来訪され，内容やリハビリテーション専門職の専門性，一次予防の必要性についての情報共有も行った．

当初，リハ学部全学科の実施を予定していたが，授業等のスケジュールの都合上，2学科での実施となった．

<開催実績>

	学科	内容	参加者
2022年 9月9日	言語聴覚学科 学生4名，教員2名	①高次脳機能 ②口腔運動 ③発話 ④家での予防法の指導	12名
9月28日	作業療法学科 学生5名，教員2名	①自己評価式抑うつ性尺度 ②生きがい意識尺度 ③興味関心チェックリスト ④日常生活のQOLの維持・向上のためのアドバイス	13名 湖西市役所 都市計画課職員
11月16日	作業療法学科 学生4名，教員2名	①～③は前回同様 ④のみ，前回とは別の資料を使用	9名 湖西市役所 都市計画課職員

<イベント参加者の感想>

本イベントに昨年度より参加されている市民の方の感想について，湖西市担当者より伺うことができた．

- ・コロナの影響で地域の集まりが減ったため，このような機会をきっかけに集まることができて楽しい
- ・コロナ禍で外出が減ったため，自分の健康を確認する良い機会になっている
- ・今までやったことのない検査が多く，面白いと感じている

<参加学生の感想（教育効果の測定結果）>

本イベントに参加した学生11名にアクティブラーニングの教育効果を測るため，参加後アンケートを依頼し，10名から回答を得た（回答率90%）．

設問1. 企画に参加したことに満足していますか？
回答：そう思う（80%） ややそう思う（20%）

理由

- ・高齢者，地域の方と実際に関わることでコミュニケーションの取り方を学べた
- ・学内だけでは学ぶことができない，貴重な経験ができた
- ・初めて検査等を行っていい経験ができた

- ・先生や先輩の指導のもと、楽しく参加できた
- ・参加者が嬉しそうにお話ししてくれて嬉しかった
- ・コロナ禍で学校外の方との交流が少ない中、地域の方とお話しさせていただく機会があったことがとても良かった

設問 2. 企画に参加したことで、大学での学びの意欲が高まりましたか？
回答：そう思う（40%） ややそう思う（60%）

理由

- ・自分の学びがどのような方達に生かされるのか、実際に見ることができたため
- ・まだ知識不足な点や課題が多々あることを実感した
- ・大学での勉強が活かされたため、より学ぼうという意欲がでた
- ・今回実施した評価について、もっと学んでみたいと感じた

設問 3. この企画に参加して感じた気持ちとして、当てはまるものを選択してください。（複数選択可）
回答（上位項目のみ記載）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の職業や就職について、さらに関心を持つようになった（7） ・ 地域の課題や企業の取り組みについて、考える機会になった（7） ・ 大学生活を通して、さらに自分自身を向上させたいと思うようになった（5） ・ 専門職者として、責任を自覚して仕事に取り組もうと思うようになった（4）

理由

- ・就職にも活用できるし、経験値が非常に上がった。
もっといろんなことにチャレンジ、参加し、意欲向上を図りたい
- ・課題が見えたため、そこを学校生活で変えていこうという意識を持つことができた
- ・地域の実際の声を聞かせていただいたことで、今後他の地域でも取り組みを広げていくべきだと感じた
- ・資料を作ったり地域の方と関わる上で伝わりやすいように説明を考えたりして、もっと勉強を頑張りたいと思った
- ・企業がどんなことをしているのか知ることができた

設問 4. WebClass「DP 達成度ポートフォリオ」の「社会人基礎力」にある「学生活動記録」の表に、この企画への参加を入力していますか？
回答：している（20%）、しようと思っている（20%）、 していない（30%）、そのページがあることを知らない（30%）

② 新たな連携の可能性の検討

・「まちの保健室」視察

杏林堂薬局店舗で行われている、磐田市の「出張まちの保健室（注2）」を視察し、杏林堂薬局の栄養士、磐田市健康増進課の保健師らと新たな連携（大学とのコラボ企画やイベント開催・参加等）の可能性について、情報交換をさせていただいた。その中で、本学が湖西市で行ったイベント（①）について「知っている」「他の市町でも実施できるのか」といったお話をいただいた。

・大運動会イベントへの参加（ブース出展）

杏林堂薬局主催で行われる「大運動会」に健康イベントに関するブースの出展の打診をいただいたが、学生の参加が難しく、今回は見送りとなった。

【結果・考察】

① 企業・学生・教員による連携事業の実施による教育・実践モデルの構築

昨年に引き続き、対面での活動を実施し、今年度は企業・行政・参加者（地域住民）・学生の意見を聴取することができた。

その結果、地域住民や行政には一次予防へのリハビリテーション専門職の関与について知っていただくことができた。また、イベントに参加した学生においては、学内での学びが地域・対象者にどのように活用・還元できるのかを知り、今後の学習意欲を高める機会となったことが伺えた。今回参加した学生は長期実習前の学生であり、コロナ禍において学外でのボランティア活動等が制約されていた学年である。実習前に地域での実践の機会を得たことで、今後の資格取得に向けた自身の課題についてより具体的に向き合うことができたのではないかと考える。

② 新たな連携の可能性と企業・地域への広報活動の効果

連携企業との活動の成果については、例年大学ホームページや杏林堂薬局の SNS、リハビリテーション学部各学科 SNS（ブログ、インスタグラム）にて発信を行っている。今回、新たな連携の可能性を探る中で、過去の取り組みが学外に広がり、本事業の活用、また学生の知見を広げる機会を地域と検討していける土壌が出来つつあることが分かった。

今後も企業や地域との意見交換、イベント開催等を積み重ね、本学のリハビリテーション専門職の特徴、特色ある教育実践について、広く広報していきたい。

【まとめ】

本事業は 4 年が経過し、本学部による地域企業との連携が形作られてきている。また、地域の課題解決のためのアクティブラーニングやリハビリテーション専門職の広報の一助としての成果も蓄積されてきている。今後は、この連携を強化・維持できる体制づくりに加え、企業との連携事業の広報を通して、リハビリテーション専門職の周知をさらに広げていくとともに、リハ学部の特色ある教育・実践機会を学生募集につなげていけるよう、検討を図っていきたい。

注 1) BaaS 事業実証実験について

湖西市が運行するコミュニティバスと市内企業が運行するシャトルバスが連携することで、両者の効率性及び利便性の向上、ひいては市内経済の活性化に資する施策の実施可能性等について調査・検討を行った実証実験である。

BaaS の運行ルートに杏林堂薬局店舗があり、買い物や調剤等の所用での立ち寄りだけでなく、健康測定や健康教室の開催など、活動や外出のきっかけになるようなイベント企画を予定されていたところに参加させていただいた。

参照：[湖西市 HP「企業シャトルバス BaaS について」](#)

注 2) 出張まちの保健室について

保健師や栄養士など健康づくりに関わる職員が、企業や磐田市内店舗などさまざまな場所へ出張し、健康づくりに関する情報発信を行う。

参照：[磐田市 HP「出張まちの保健室」](#)